



1. 目指す学校・目指す生徒

明治期に創設された本校は、常に我が国の農業教育の中心的役割を担ってきた。創立118年目の時代を築き、令和10年度の創立120周年に向けて名実ともに日本を代表する「農業の専門高校」としての充実を目指す。

校是「勤勉 勤労」

※ 校是とは、学校設立の根本精神をいう。初代校長、熊谷八十三先生が明治41年開校にあたり「勤勉 勤労」を生徒心得として定めた。

☆スクールミッション

「勤勉・勤労」を校是とし、検定・資格取得の推進、学校農業クラブ活動の活性化、地域・社会貢献活動といった教育活動を通じて、基礎学力と専門技能を身に付けた、人間性・社会性豊かで、社会に貢献し、予測困難な未来を生き抜く生徒を育成します。

☆スクールポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ア) 資格取得・検定合格ができる基礎学力及び専門技能や知識を獲得する。
- イ) 将来に向けたポジティブなモチベーションを持つ。
- ウ) 他人を尊重したうえで、自らの考えを論理的かつ分かりやすく表現する力を身に付ける。
- エ) 課題を見出した上で、その課題を自ら解決する力を身に付ける。
 - オ) 協働に必要なコミュニケーション力の第一歩である、挨拶ができる習慣を身に付ける。
- カ) 自分のみならず、他人や自然を敬う心を持つ。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ア) 0時間目を活用し、学びなおしや資格取得・検定合格、キャリア教育のための講座を開講する。
- イ) 主要3教科では小・中学校の復習のための教材を活用する。
- ウ) 特別専門講師等から園芸に関するより高度な専門知識や技術を身に付けられる授業を展開する。
- エ) タブレット端末等を活用し、一人一人の能力や興味に応じた授業を展開する。

(3) アドミッション・ポリシー

本校は「勤勉勤労主義」という根本精神の下、土や植物と触れ合うことによって、園芸についての知識と技術を身に付けられる学校である。各学年1クラスで、家庭的な雰囲気の中で楽しく学ぶことができる。通信制高校の科目も学習することにより、3年間での卒業も可能である。

- 1 植物や農業に関心をもち、意欲的に学習に取り組める生徒
- 2 毎日の学校生活に真面目に取り組み、積極的に高校生活を送ろうとする生徒
- 3 本校で学んだことを将来の進路に生かそうとする生徒
- 4 他人に対する思いやりや感謝の気持ちをもてる生徒

〈目指す生徒〉

基礎学力と専門技能を身に付けた

人間性・社会性豊かで、学び続ける力をもった生徒

不透明な時代で活躍するために「タフでしなやかな生徒」の育成

2 中期的目標と方策

東京都教育施策大綱～誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育～（令和7年3月）、都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム（令和7年3月）の精神を、「園芸高校定時制教育」に生かす。

(1) 学校経営

「個人商店主義」の排除、**「一体的経営」**を行う。

（学校は組織で教える所。全体のベクトルを合わせて「チーム学校・チーム園芸」で進める。）

- ① 「教職員全体の経営参画意識」と「学校全体での改善」による学校の力の強化
- ② 「部分最適」よりも「見える化」による「全体最適」の優先、「最適解」を意識する。
- ③ これまでの教育スタイルを見直し、デジタルを活用した新しい教育スタイル(LPX)へ転換
- ④ 成果検証の確実化・迅速化を図る。
- ⑤ 「東京で一番、全日制・定時制の仲のいい学校」、「全・定」間の見える化を図る。
- ⑥ 「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づきライフ・ワークバランスの推進を図る。

(2) 学習指導（共通の基盤）

「校是「勤勉 勤労」の体現」と「力を付ける授業」

- ① 「言語活動の充実」を図る。読解力を育成し、「アウトプット（話す・書く・行動する）」も重視し、生徒の思考場面を重視した「考え抜く授業」を実践する。
・（定義の理解など）教科書を読んで理解できる力・表現できる力を育成する。
- ② 「TOKYO ACTIVE PLAN for students（総合的な子供の体力向上方策（第4次推進計画））に基づいて体力向上を目指し農業系高校に相応しい体力を育成する。

(3) 専門教育（多様な方向性、能力の最大化）

- ① 「技能スタンダード（資格取得と客観的評価）」と「アグリマイスター顕彰制度の活用」
- ② 「教員個々の指導力の向上」「スマート農業技術など先端技術の習得」
- ③ 専門教科と普通教科の連携による教科横断的な授業による深い学びの充実

(4) 生活指導（規範意識の醸成と生徒に寄り添う指導の充実）

- ① 「挨拶ファースト運動」と生徒自身でできる「時間管理」の方法を作る。
- ② 「3つのリスペクト運動」で互いに敬意を払い、尊敬されるよう自身を律する。この運動を通して、「体罰といじめ」のない、許さない学校環境を作る。さらに、自殺総合対策大綱に基づいた「自殺の未然防止」につなげる。
- ③ 「厳格」と「受容」、（ゼロトレランス）と（カウンセリングマインド）により早期発見と早期対応を組織的に行う。
- ④ 生徒の自己特性の理解推進と自分を客観視やメタ認知する支援の充実

(5) キャリア教育・進路指導（産業社会で自立できる力）

- ① キャリアプランに基づく、「学校から社会・職業へ移行した後まで見通した系統的指導」
- ② 「学校外組織と連携」（産業界、大学、ハローワーク、サポートステーション等）
- ③ 希望する進路実現に向けた進路指導

(6) 特別活動（豊かな人間性と社会性、母校愛・連帯感の育成）

- ① 歴史ある「園芸展」や「体育祭」の2大行事で生徒の個性の伸長と育成を図る。
- ② 「学校の名所」維持管理で「母校愛」を育む。
- ③ 生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的な参加を通して、社会性、連帯感、母校愛を育成する。

(7) 健全な心と身体の育成

体力向上、食育、心身の健康に関する指導を充実させ、健全な心と身体を育成する。

(8) 地域連携（学校・地域・海外・産業界の連携）

① 地域連携や商品開発による起業家教育、キャリア教育を充実させる。

② 「専門」を生かした地域連携、地域との協働

(9) 教育財産・予算（質の高い教育環境）

① 「校舎内外のきれい化」

② 「歴史的教育財産の維持管理」

3 今年度（令和8年度）の目標と取組み（特に今年度行うべきこと）

経営計画実現のための〈基本施策〉

◇1 「授業力の向上」

お互いに授業を見合う中で授業PDCAを高める。定時制では人的リソースが限られるため、他校での授業実践や研究会等へ積極的に参加し研さんする。

◇2 「地域連携・教科連携」：社会に開かれた教育課程と教科横断的な学びの実践

定時制教育を通してよりよい社会を創る理念を実現させるため、地域社会との連携及び協働、教科横断的な学びをとおして、その実現を図る。また、成果検証のPDCAを常に行う。

◇3 「創立120周年に向けた価値創造」：「サステナブル&クリエイティブ アグリハイスクール宣言」

・日本初の園芸の高校としての教育活動（研究・地域貢献等）を持続的に継続する。

・Society5.0の時代に新しい一歩を踏み出し創造する。（DXハイスクール）

・「N-E.X.T(ネクスト)ハイスクール構想」(文科省)を踏まえ、サステナブル&クリエイティブ アグリハイスクールへ転換を図る。

◇4 「園芸高校からの情報発信」（農業系専門学科の認知度向上）

社会へ本校の教育活動や教育内容を積極的に情報発信し、農業教育や農業の重要性を伝える。また、全教員による中学校訪問や出前授業、塾訪問を実施し、専門学科高校の認知度を高める。

人間性・社会性を育成するための〈生徒指導〉

1 「挨拶ファースト運動」

挨拶の意味を理解し、自然と挨拶ができるように取り組む。

2 「3つのリスペクト運動」生徒に敬意・尊敬・畏敬の念を育てる

① 人をリスペクトする（人に敬意を払う）

② 人にリスペクトされる（人に尊敬されるよう自身を律する）

③ 自然をリスペクトする（園芸の自然物に畏敬の念を払う）

(1) 学校経営 (学校経営、グローバルアグリスクール、情報発信と募集対策、ライフ・ワークバランス)

①学校経営

ア 成果検証の確実化・迅速化

学校行事終了後は、生徒の変容と成果検証をすぐに行い、具体的な改善事項を実施後2回目以降の企画調整会議で報告する。

イ デジタルを活用した新しい教育スタイル(LPX)へ転換

②「創立120周年に向けた価値創造」:「サステナブル&クリエイティブ アグリハイスクール宣言」

・日本初の園芸の高校としての教育活動(研究・地域貢献等)を持続的に継続する。

・Society5.0の時代に新しい一歩を踏み出し、価値を創造する。

③情報発信と募集対策 (農業系専門学科の認知度向上)

ア 「学校ホームページ」のコンテンツ充実、SNSでの発信を強化し、公式ツイッターやインスタグラムの更新頻度を高める。

イ 全教員による中学校訪問や出前授業を実施し、専門学科高校の情報を発信する。

ウ 学校案内の充実による教育活動の発信力を高める。中学校への出前授業を充実させ、本校の魅力を中学生に伝える。

④ ライフ・ワークバランスの推進

ア 教職員各人のライフステージに応じた働き方改革を工夫し、生徒への教育の質は高めつつ教職員はWell-being(ウェルビーイング)な心身と社会的な健康生活の両立を図る。

イ 学校閉庁日の設定に当たり、保護者や学校外への理解・啓発を図る。

ウ 年次有給休暇の一層の取得促進(月1回以上の取得、年間15日以上)

エ 長期休業期間や学校閉庁日においては夏季休暇、年末年始等と合わせ、連続して取得を図る。

(2) 学習指導 (基盤学力)

①全教員が、「教員相互の授業参観の実施」学期に1回以上、「外部での模範授業や公開授業」年1回以上を参観し、自己の授業のPDCAに生かし、授業力向上を図る。

②全ての教科で「言語活動の充実」を図る。「読解力」を育成し、「アウトプット(話す・書く・行動する)」を重視した、生徒の思考場面を取り入れた「考え抜く授業」を実践する。

③全ての教員が「主体的、対話的、深い学びの授業」(AL型)を実践する。

④STEAM教育の推進 各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的学習を展開する。

⑤探究型学習、プロジェクト学習、課題解決学習などの学習活動の充実を図り、生徒の「答えのない課題」と向き合う力を身に付けさせる。

⑥個別最適化された学習による自学自習と協働的な学びを通じたアウトプットの習慣を確立させる。

⑦教員が、一人一台端末(PCタブレット)を活用し、分かりやすい授業を行うとともに、年間3回以上、スタディサプリの課題の配信を行い、個別最適化された学習と生徒の学習習慣の定着を図る。

⑧教科横断的な学びやSTEAM教育の推進により、各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための展開をする。

⑨探究型学習、プロジェクト学習、課題解決学習などの学習活動の充実を図り、生徒の「答えのない課題」と向き合う力を身に付けさせる。

⑩基盤学力の保証のため、漢字検定、英語検定・数学検定・ニュース検定等をはじめとする普通科目に関する検定を推奨し、合格数50件以上を目標とする。

⑪基盤学力の向上のために講習・補講などの支援を放課後、長期休業期間に計画的に行う。

⑫「生徒による授業評価アンケート」年1回実施し、教員の授業力向上を目指す。

(3) 専門教育 (進路に生かせる技能、社会のニーズに応える人材育成)

①検定 「日本農業技術検定(3級)」に挑戦させ、合格率85%以上を目指す。

②資格 「造園技能検定3級、フラワー装飾技能検定3級」を選択して取得させる。

各学年において毎年、一人一つ以上の検定合格、資格取得を目指す。

③生産工程管理(GAP)の概念を理解し、実習場面で「GAPする」を実践する。第三者機関であるJGAP認証を契機として安全・安心な農業を実現する。

- ④経営感覚を有した生徒の育成のために、生徒が栽培した生産品等の販売実習の場面において実践的な経営学習となるように事前・事後指導を充実させる。
- ⑤学校農業クラブ活動の活性化、プロジェクト活動の充実と発表活動への参加
アグリマイスター顕彰制度認定者2名以上。
- ⑥「農業教育と環境教育の両立」ESD (Education for Sustainable Development) =持続可能な開発のための教育、SDGs (Sustainable Development Goals) =持続可能な開発のための教育、の趣旨を生かした農業と環境の両立を図り、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を推進する。ホームルーム等を活用したSDGsの実践を積み重ねる。
- (4) 生活指導 (規範意識を高める)**
- ①「お掃除ファースト」 (使用教室の清掃、ごみの持ち帰りでごみ処理量を削減)
- ②「時間管理」 (授業遅刻 5%以内)
- ③「問題行動ゼロ」 (問題行動 3件以内)
- (5) キャリア教育・進路指導 (社会の変化に対応できる力を高める)**
- ①「キャリア教育マップ」を活用し、早期からの進路意識の高揚を図る。
- ②「教員による企業訪問・開拓」
企業や社会が求める人材像を的確に把握し、日常の指導に生かす。
- ③「アルバイトの推奨」 (社会参加のトレーニングとして 経験者率80%以上)
社会的自立に向けた準備を行うとともに、自己理解と能力開発に努める。
- ④「就職希望」に対応する。(進路決定率100%、第1志望実現率70%以上)
- (6) 特別活動 (学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的参加)**
- ①「園芸展」と「体育祭」の2大行事で生徒の個性、社会性の伸長と育成を図る。
- ②全教育活動(行事、HR、農業クラブ、部活動等)を通して、自主性や社会性、協調性を育成する。
- (7) 健康教育**
- ①がん教育や給食指導等を通して生涯に渡る健康づくりの基礎を身に付けさせる。
- ②自殺対策基本法及び自殺総合対策大綱に基づく生徒の自殺対策に資する教育を推進する。
- ③全教員に「気になる生徒」の調査を実施し、特別支援教育の更なる充実を図る。
- (8) 地域・社会貢献 (社会に開かれた教育課程の先進モデル)**
- ①地域活動における生徒の変容を大切にする。生徒自身が地域における活動において、外部からの評価を得ることで、次の学習行動につながるように指導する。
- ②近隣の公共施設(玉川消防署、玉川警察署等)での花壇植栽活動を行う。
- (9) 教育財産・予算 (質の高い教育環境を整える)**
- ①校内の名所「教育財産」を整備して価値を高めるために、定時制と全日制で協力して維持・発展に努める。
- ②予算執行を早めに行い、落差金等を学校運営に活用する。
- ③経営企画室の経営参画意識と広報・広聴機能を強化する。
- ④施設・設備の改修計画に基づき、教育環境の改善と充実を図る。



「東京都立園芸高等学校は持続可能な開発目標 (SDGs) を行動基盤として社会貢献・地域貢献できる人材の育成を目指しています。」